

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 11月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	3272100243		
法人名	社会福祉法人 吉賀町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム あさくら		
所在地	島根県鹿足郡吉賀町朝倉712 (電話) 0856-78-2060		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43 市民活動センター		
訪問調査日	平成19年10月29日	評価確定日	平成19年11月19日

【情報提供票より】(平成19年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人,	常勤換算7.8

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建て	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	3名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	1名
年齢	平均 87歳	最低 79歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	六日市病院	おがさわら歯科
---------	-------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地にあるホームであり、駐在所や美容院・小学校等との交流や見守りが日常普段に行われ、子供たちも自由に出入りしている。「地域の中で暮らしを支援する」ことが開設当初より掲げられ、利用者は地域の一人として生活している。多くの利用者が小銭を持ち商店で日用品の買い物をしたり自分で出来ることは極力行ってもらう等、自立した生活支援にも力を入れている。食事中には賑やかな会話があたり食後に楽しい歌声が響く等、利用者は心から生活を楽しみ、職員に信頼を寄せている様子であった。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	①運営推進会議の開催、②理念の地域での説明会の開催等が上げられていた。①は今年の一月から基本的に2ヶ月に一回開催され、②は説明会は行っていないものの社協だよりを通じホームのことを広報している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議等を通じ全職員の意見を聞きながら取り組んできた。職員は意義について理解しホームを良くしていきたいと意欲的である。外部評価についても、結果をもとに職員で改善点を検討してきた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政関係者複数をはじめ、利用者代表・家族代表・ボランティア等が参加し、理念や諸行事・外部評価結果・防災関係・運営に関する事などが議論されている。家族交流会の開催時期や防災対策の助言等が運営にいかされ、ボランティアや家族からは一日ホーム体験の要望や介護の悩み等も出されている。議題は事前に通知され、結果は関係者に送付されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族交流会時や日頃の面会時に意見や要望を聞くようにしたり連絡帳を活用しているが、面会の少ない家族に対する対応に不十分さがあると自覚されていて、アンケート実施が計画されている。運営推進会議で出された家族の意見で防災に備えてカセットコンロを購入したり、交流会の時期を変更する等運営にも反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携を重視した理念を掲げており、周辺の駐在所をはじめ、美容院・小学校・ふれあいサロン等との交流に力を入れ、諸行事にも積極的に参加している。美容院ではお茶を出されたり、小学校からは行事の参加案内があったりと、周辺住民や小学生の日常的なホームへの出入りがある等地域に溶け込んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組 み を 期 待 し たい 項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の行っている介護の中身や利用者への思いや姿勢等を文字にしてできたものが理念となっており、地域密着型サービスとしての理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の思いで作られた理念であり、共有されたものとなっている。管理者からは理念に基づき日々のケアの中で適切な指導や助言が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の環境美化活動に利用者や職員が参加したり、敬老会や盆踊り等色々な行事に参加して交流を深めている。小学校の行事にお誘いを受けたりと子供達の訪問も日常化している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員会議で報告し改善に向けて検討してきた。職員からは緊張するが受けて良かった、少しでも改善できてうれしいの意見が出され、前向きに受け止めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政関係者の複数参加をはじめ、ボランティア等が参加している。理念や外部評価結果・防災等が議論され、要望や助言は運営に生かしている。議題は事前に通知され会議報告も関係者に送付されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に複数の行政関係職員が参加する中での連携をはじめ、管理者は分からないことや困っていること等を担当者に相談し助言を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議報告やケアプランの送付と共に、毎月、利用者の写真と一緒に広報担当者が書いた個別の手書きのお便りで日々の様子や職員の紹介等を行っている。家族との連絡帳も活用されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会や日頃の家族の面会時等に意見や要望を聞くようにしたり、面会の少ない家族にお便りに意見を書いてもらうよう依頼している。	○	家族会の運営上の工夫やアンケートの実施で意見や要望を把握すると共に、運営に反映して頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の維持の視点から基本的にグループホームの職員の異動は行っていない。新採用者には、ホーム体験ボランティア活動によりダメージ対策を採っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内をはじめ、地区内等の研修に積極的に参加し、伝達講習も毎月の職員会議で実施している。資格取得への支援もあり、法人内で職能評価の導入が来年から予定されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田圏域で「認知症ネットワーク会議」が開催され、情報交換を行ったり相互訪問をする等でサービス向上に役立てているが、職員全体のものにするには不十分さがある。	○	計画されている近隣三ヶ所の同業者間の職員による相互訪問や交流会を早期に実現して頂きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前のホームの見学をはじめ、本人が困っていることや不安に思っていること等を把握している。早く馴染んでもらうためにと家族と一緒に昼食を摂る等工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作りや収穫も職員と一緒にいたり、押し寿司や料理方法・味付け等を教えてもらったりしている。神輿や獅子舞にホームに寄ってもらい利用者に喜んでもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や言動の中から、利用者の思いを把握するようにしている。家や墓が気になる人に外出時に立ち寄って安心してもらったり喜んでもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見や要望をはじめ、関係者の意見がプランに反映されている。本人の生活歴や趣味・特技等をもとに日々の支援が実施されているもののプランとして上げられていないものがある。	○	センター方式の導入が考えられており、利用者個々のその人らしさを踏まえたプラン作成の充実に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の話し等が即座にメモ（気づきシール）されプランに反映する等の工夫がある。評価もしているが記録が別で分かりにくい。見直しもその都度行っているが、一ヶ月に一回となっていない。	○	気づきシールのより積極的な活用や分かりやすい記録物の工夫に期待したい。一ヶ月に一回の見直しをして頂きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の同行支援をはじめ法事・盆・正月・結婚式参加等の外出外泊の支援を積極的に行っている。ショートステイの利用ができるような体制もとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診のためにかかりつけ医への通院介助をしている。近隣の開業医が一人であり定期往診は難しいが、緊急時にはすぐ来てくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の関係者や家族・医師で話し合い、看取り方針を作成した。今の段階では医師の往診体制や看護師の体制等から、ホームで看れるところまでは見ていこうと確認しあっている。看取りの実績はない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレへの誘導をはじめ、居室で過ごしたい人、歩行に困難さある人等に対しても周囲の利用者に配慮した対応をする等、細やかな支援を行っている。	○	事務室と居間とが隣り合わせとなっていることもあり、日誌や個人記録等の保管管理の工夫を望む。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れがあるが、起床・就寝・入浴等利用者のペースが尊重され、制限のない生活となっている。	○	業務を優先する流れになりやすいことを職員は自覚している。相互の点検や声掛けで常に利用者ペースの生活が確保されるようさらに心掛けて頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3つのテーブルに分かれ、職員も利用者と同じ食事を一緒に食べている。野菜の茹で方や味付けの話が出たり、利用者・職員共に朗らかに和気藹々と食事を楽しんでいる。配膳・片付けは利用者自らがやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間・日曜日を含め、毎日いつでも入浴可能であり、職員体制も確保している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物や裁縫・畑仕事をする、新聞を読む等、本人の趣味や特技・生活歴に配慮した支援を行っている。タオルで縫った雑巾を学校等に寄贈し喜ばれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調・希望等により、散歩や墓参り・買い物・ドライブ等に出かけている。受診時に利用者の自宅や墓に寄ってみる等の心遣いも行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開錠され出入りは自由であり、利用者が徘徊した時には地域のサポートがある。季節の日没時間に応じて夕暮れから朝まで施錠され、一般家庭と同じようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災対策マニュアルが作成され、年2回の消防署との訓練を実施している。備蓄品も確保され、運営推進会議で出された水害被害者の意見を参考にカセットコンロ等の備品を補充した。	○	町発行の「防災のしおり」を参考に、地域と連動・協同した防災対策となるよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取は個人記録に記入され、把握管理されている。利用者の状態や体調に合わせた支援を行っているが、栄養バランスのチェックは行っていない。	○	法人内の管理栄養士か給食センター・学校等の関係者の協力で年何回かの献立チェックを実施されることに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には刺繍の壁掛け等が飾られあちこちに花が生けられている。居間にはメダカの水槽があり利用者が餌をやっている。寛いだり、季節感を味わってもらうような配慮がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や寝具・写真等が持ち込まれたり、観葉植物や花等が窓辺に置いてあったりと心地良く過ごせるような空間となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。